

長期観察が明らかにした子グマたちの生き様

— ルシャ地区ヒグマ調査から その5 —

繁殖力旺盛なクマたち

ルシャ地区では、ヒグマたちが子を産む間隔や出産頭数などが詳細に分かってきました。2006年から9年間について、11頭のメスの37例の出産や子の数を調べたところ、子の数は1～3頭で、2頭が25例で最も多く、平均産子数は1.84頭となりました。子グマの性比はほぼ半々で、平均出産間隔は2.23年でした。これはほぼ1年おきに子を産んでいることを示しています。餌条件が悪い地域では、3～5年に1回しか子を産まない場合もありますが、この地区のヒグマは高い繁殖力を持っているといえます。

しかし・・・、生き残るのはむずかしい

では、これらの子グマたちは、どの程度生き残ることができているのでしょうか。表1は2008年から2014年までの当歳子の出生頭数や生存頭数などを示しています。生存率は年によって大きく変化することがわかります。2012年はカラフトマスの遡上が1ヶ月も遅れて、多くのクマが飢餓状態におちいった年ですが、6～8割の子が死んでいます。当歳子の死亡がない年もありますが、むしろ2～3割の子が死ぬのが普通で、年によっては大半が死んでいたのです。2年目の春までの生存率はさらに低く、最大に見積もると6割方が死亡しています。

子グマはいつごろ死んでいるの？

図1には、連れていた当歳子の数が減ったことが観察された時期を示しています。当歳子が母から分かれることはあり得ないことで、いなくなった子グマは死亡したと判断できます。子の死亡のほとんどは6～8月の夏期に発生していました。ルシャ地区では初夏のヒグマの餌になる草本の資源量が、エゾシカ



強力な母グマに守られた、愛くるしい子グマたちだが生き残るのは難しい。このクマも2頭の子を連れていたが夏までに1頭を失った。

によって低下しています。8月にカラフトマスが川に遡上して、魚を大量に食べることができるようになるまでの間が、子グマたちにとって最も厳しい季節といえます。

子グマたちの厳しい現実

厳格に保護されたルシャ地区では、子グマの人為的な死亡はありません。サケマスが豊富に遡上し、自然度も高いルシャ地区でさえ、これだけの自然死亡がみられるということは、人間の脅威にさらされる保護区の外の子グマたちは、もっと生存率が低いでしょう。

加えて、特にオスグマには、次の試練が待ち受けています。2才まで生き残ることができても、多くは3～4才になると親の生息地を離れて大きく分散していきます。その過程で他のオスグマに殺されてしまうものも少なくありません。また、保護区の外に出て、人間との軋轢の中、命を落とすものも多いのです。北の森の王者であるヒグマですが、大人になるまで成長することは本当に難しいのです。（山中 正実）

図1. 2009年から2014年に確認できた、母グマが連れていた子の数が減った時期(当歳子の死亡推定時期)

母グマ	確認年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ワッキー	2009		—	—				
ドラム	2009		—	—				
キリコ	2009				—	—		
バンコ	2009	—	—	—				
リンダ	2012				—	—		
DC	2012				—	—		
クサビ	2012				—	—		
ハッチ	2012				—	—		
ワッキモ	2013		—	—				
BE	2014		—	—				
リッチ	2014		—	—				
ワッキー	2014		—	—				
ドラム	2014		—	—	—			

※この調査は、ダイキン工業株式会社のご支援のもと、知床財団と知床博物館、北海道大学獣医学研究科との共同研究により行われています。現地調査は知床漁業生産組合の全面的な協力に支えられています。

表1. 2008年から7年間のルシャ地区における年別出生頭数、1～2年後の生存頭数と死亡率

年	産まれた子グマの頭数	出産したメスグマの頭数	当歳子生存頭数	2年間生存頭数	当歳子死亡率	2年間死亡率
2008	3	2	2-3	2-3	0-33%	0-33%
2009	9	5	3-4	3-4	56-67%	56-67%
2010	10	5	8-10	8-10	0	0-20%
2011	9	5	9	3-5	0	44-67%
2012	6	4	1-2	0-2	67-83%	66-100%
2013	5	3	4	未確定	20%	未確定
2014	16	7	(12)	未確定	(25%)	未確定
Total	58	31	41-44	16-24	24-29%	35-57%

発行 知床博物館協力会 2015.4.24
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>